



**はてなの解説**

日本はエビの消費大国で、その多くを東南アジアから輸入しています。生産性の高い養殖方法として集約型養殖が広がりましたが、マンゴローブ林の伐採や、大量の飼料、抗生物質、エビの糞による水質汚染が深刻な問題となっています。またヘドロの蓄積した池は数年で使えなくなってしまう。

一方エコシュリンプが育つ粗放養殖は、300年以上歴史のある伝統的な養殖方法です。広大な養殖池は潮の干満を利用して池の水を入れ替えます。インドネシアのエコシュリンプ生産者は約1,000人。生産し加工し製造する人がすべて明らかなので、話し合いや交流もできて、消費材のさらなる改善や信頼関係を築くことができます。